

平成 20 年 10 月 24 日

第 9 回石西礁湖自然再生協議会 普及啓発 G D 中間とりまとめ

1. 議論の方向性

石西礁湖自然再生全体構想の趣旨に沿って、多岐にわたるサンゴ礁生態系保全の関係者のみならず広く一般に、その理解を求め、協力してもらい、当該自然再生の取り組みの主体になってもらうよう、特に以下の 3 つについて、どの様な普及啓発を実施すべきか、具体的にどの様な普及啓発ができるかについて討議を重ねてきたところ。

- 1) サンゴ礁生態系に関する一般的な理解の増進
- 2) 関連産業、生活等における意識の向上
- 3) 観光客等の意識向上につながる観光の推進

2. 議論の経過

- 1) 誰に何を啓発していくか、していけるかを明確にするため、具体的な啓発手法について意見出しを行った。
- 2) 石西礁湖自然再生に関わる普及啓発を実施する者としては、協議会メンバーが主体的に行っていくものであるとした。
- 3) 石西礁湖自然再生に関する普及啓発を適切に推進していくために、どの様な体制・枠組みを持つべきか議論を重ねた。
- 4) 既に取り組まれている活動事例について分類整理し、その優先度（サンゴ礁環境負荷が大きいもの）から「観光」（八重山地域で最重要産業であるため）と「地域コミュニティ」（地元生活上、恒常的な負荷をかけているとともに、長期的な取り組みをしていく必要があるため）の 2 テーマを特出し、先行的に議論を深めていくこととした。
- 5) 別途、議論を円滑に進めていくため、普及啓発 G メーリングリストを立ち上げた。
- 6) 各テーマについて G D を補完するワークショップを立ち上げ、とりまとめ役（観光；金城氏、通事^{とおじ}氏、地域コミュニティ；竹川氏、太田氏）を中心に、このテーマにおける普及啓発の具体的な趣旨、対象、内容方法について議論を深めた。

3. 今後の進め方

これまでの討議を踏まえ、「観光」と「地域コミュニティ」のそれぞれについて行動計画（石西礁湖自然再生の普及啓発として、誰に、どの様な内容で、どの様な方法で、どの様なこと理解してもらうかを示しているもの）を作成することを当面の目標とし、議論を深めていく。また、その次のステップとして、その中から優先順位及び実行可能性の高い案件から具体的に活動を進めていく。